

衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○ 本校では、飼育環境委員会を中心にヤギの飼育を行い、生活科の中で第1、2学年の児童がヤギと継続的に触れ合う活動を行っています。これまでに助言していただいたことに加え、新たに気付いたことについても、学校担当獣医師に確認をしながら、飼育動物の環境をより良くするために改善に取り組んでいます。

特に、ヤギの様子に不安があったときには、獣医師に健康診断をしていただいたり、餌の量や観察のポイントを指導していただいたりすることができました。



飼育のポイントについての指導



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○ 本校では、各学期1回程度実施しました。ヤギの適切な餌の量や体調を観察する際のポイントについて助言いただきました。ヤギは体調を崩すことがありましたが、その際は、飼育小屋の改善や治療方法について指導を受けました。

また、感染症対策により、ヤギの飼育活動に協力いただいているヤギボランティアの方々と、日頃の飼育活動について意見交換する場を設けることが難しかったので、学校を通じてボランティアの方からの質問を学校担当獣医師に伝えるなどして連携をとりました。

【児童の反応】

○ 適切な餌や水の量、糞ふんや尿の処理の仕方、ヤギの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言をいただくことで、児童がより良い飼育活動を心掛けるようになり、詳しく観察して、ヤギの様子や変化に気付くようになりました。

○ ヤギの様子や飼育について児童自ら、気付きや疑問をもつことができ、学校担当獣医師に質問することができました。より良い飼育について詳しく知ることで、児童が自信をもって、主体的に飼育活動に取り組むことができました。



世田谷区立太子堂小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師からウサギの飼育方法を、第5、6学年の飼育委員会の児童に指導・助言していただきました。

児童が触れようとするすると暴れていたウサギですが、今ではすっかり大人しくなり、児童が安心して触れられるようになりました。そのため、飼育委員会を中心としたウサギとの触れ合い活動を実施しています。



ウサギとの触れ合い活動

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師に来ていただき、暑さ寒さへの対策や、ウサギの習性、食事の量など、健康維持に関わる大切な事柄を教わりました。
また、実際に飼育小屋の環境についてもウサギが落ち着けるような場所を設置するなどのアドバイスをいただき、改善しました。
- 姿勢を低くしながらゆっくりした動作で接することで、人との関係が改善し、ウサギの行動に変化が見られるようになりました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、安全面やウサギのストレスを考えながら飼育活動ができるようになりました。
- 飼育委員会の児童は、低学年の児童やウサギとの触れ合いに慣れていない児童に対し、姿勢を低くしたり優しく触ったりと、接し方のコツを伝えることができるようになり、自信をもって活動しています。
- 休み時間、全校児童にウサギと触れ合える機会を設けることができるようになり、以前よりも全校児童の飼育に関する意識が高まってきています。



中野区立白桜小学校

【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、モルモットやチャボが快適に過ごせるように、小屋の掃除、餌やりを毎日行っています。鯉への餌やりもかさず行っています。
- 低学年、高学年の児童が学校担当獣医師から、モルモットやチャボの飼育環境や衛生指導、モルモットやチャボが安心できる抱き方などの話を伺いました。
- 学校担当獣医師から教えていただいたことを基に、飼育委員会の児童がモルモットやチャボの餌や飼育状況について、委員会紹介集会の中で発表しました。
- 第2学年の児童は、毎日観察日誌をつけています。餌の量や生活の様子、気付いたことをまとめています。



飼育委員会の児童による小屋の清掃

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校獣医師に来ていただいて、適切なすみかになるように床材として新聞紙、乾草、木材チップなどを敷くこと、温度を 18~24℃、湿度を 40~70%に保つことを助言いただきました。また餌はモルモット専用ペレット、野菜、果物、乾草、野草等を与え、特にビタミンCの含有量が多い野菜等を意図的に多給する必要性を助言いただきました。

【児童の反応】

- 助言していただいたことを基に、給餌を実践し、適切に飼育をしようという高い意識をもっています。
- 掃除の時には、汚れたわらの始末をきれいに行い、モルモットが過ごしやすいようにわらの量を考えて補充しています。
- 冬には、寒さ対策として透明のケージを使い、新聞紙を使って暖をとれるように調整しました。



青梅市立第七小学校

【実践の概要】

- ウサギの健康を維持する方法などを御指導いただきました。
- ウサギにとって最適な小屋の状態、適切な餌の種類について御指導いただきました。



ウサギの爪の切り方の指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 年度当初、ウサギの飼育状況把握のための場を設け、オスとメスを小屋ごとにきちんと分けて飼育することや、性別判定を速やかに行い、判別できるまでは、ゲージ内に個別に管理することなどのアドバイスをいただきました。
また、教員がウサギの爪を切ることは今までなかったので、実際にどのようにして切ったらよいのかを御相談させていただき、指導してくださいました。
- ウサギは仰向けの姿勢になることが野生ではありえないが故に、膝の上で仰向けにすることにより、ウサギは動かなくなるということを教えていただきました。この方法で爪を切ると、ウサギにケガをさせてしまうなどの心配がないことを学びました。



青梅市立新町小学校

【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、ウサギが快適に過ごせるように、毎日餌やりと小屋の掃除をしています。
- 飼育委員会では、当番を決め、中休みと昼休みに、ウサギの世話をしたり、ウサギを小屋の外に出して遊ばせたりするとともに、ウサギの様子を飼育日誌に記録しています。



ウサギが食べていいもの、
食べてはいけないものの説明

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会では、学校担当獣医師に来ていただき、ウサギの生態や飼育を行う上で大切なことについてお話を伺いました。
- 飼育委員会の児童と学校担当獣医師と一緒にウサギ小屋に行き、毎日の世話で分からない点を質問したり、世話の仕方を教えてもらったりしました。
- 教員を対象に、ウサギの飼育の仕方、暑い時期や寒い時期、大雨が降った時に飼育小屋に必要な物について指導してもらいました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、学校担当獣医師からウサギについて教えてもらったことにより、正しい可愛がり方を知り、自分たちだけでなく低学年の児童にも声をかけながら、楽しんでウサギとの触れ合いを行っています。
- ウサギの世話の仕方や飼育小屋の管理の仕方を教えてもらったことにより、飼育小屋の掃除をより入念に取り組む児童が増えました。
- 教員が衛生管理について研修を行ったことで、飼育環境を整えることができました。